

い草・畳表の魅力を紐解く

森田 洋

北九州市立大学 国際環境工学部

日本の伝統文化である和室に欠かすことのできない畳がい草で作られていることは皆さんもご存じのことか
と思います。い草は熊本県八代市が最大の産地で、作付面積は国内の約95%を占めています。古くは岡山県が
最大産地でしたが、工業都市への転換により現在は栽培農家がない状況にあります。また、畳やい草は昔と
比べて大変減っており、1970年代に約10,000 haあった国内のい草栽培面積は、現在ではわずか380 haとなっ
ています。その大きな要因は建物の洋風化や海外から入ってくる安価ない草にあります。近年は畳の需要低
下に伴い、海外でもい草の生産をやめるところが増えています。加えて、強度や撥水性が高いという理由から
化学表といわれるポリプロピレン製のものや、和紙を樹脂でコーティングした和紙表と呼ばれるような、畳風
の敷物が市場に多く出回るようになり、い草で編まれた本物の畳は更に苦境に立たされています。

私は1999年に八代高専（現在の熊本高専）に赴任したことがきっかけで、い草・畳表の研究を始めました。
い草の特性を明らかにすることで、室内環境におけるい草・畳表の重要性を見いだすことができれば、低迷す
る畳需要の再浮上につながるのではという思いで研究を進めてきました。い草の機能で特筆すべきは、内部の
多孔質構造（ハニカム構造）にあると考えています。このハニカム構造は畳の吸放湿性に大きく関与しており、
畳1畳で500 mLの水分を吸うといわれるほど高いことが知られています。夏場に和室に入るとひんやりと感じ
るのは畳のおかげでもあります。また、い草のハニカム構造は室内におけるVOC類の吸着にも貢献していま
す。住宅の高気密化が進み、換気の重要性が様々なところでいわれていますが、湿気やVOC類の除去という
観点から畳がもっと見直されても良いのではと考えています。その他にも白癬菌や体臭・腋臭の原因菌などに
対する抗菌・抗真菌効果や吸音性（畳の部屋は静か）や弾力性（転倒しても怪我のリスクが少ない）など、い
草や畳には様々な機能性があります。少し変わったところでは、小中学生を対象に畳教室とフローリング教室
で学習効果を比較したところ、畳教室で勉強することによる集中力の持続効果や疲れにくい効果が認められま
した。詳細な原因はわかりませんが、い草の香りにその秘密があるのではと考えています。

畳の歴史は奈良時代からともいわれていますので1300年あま
りになるでしょうか。その間、日本の伝統文化として現在まで
続いてきたことには多くの理由があると考えています。い草・
畳表の研究をはじめて25年あまりが経ちますが、その理由を一
つ一つ科学的に紐解きながら、私たちの世代でい草を絶やさな
いようにしなければならないという使命感のもとで消費者に対
する普及活動にも力を注いでいます。是非、畳のある暮らしを
皆さんにも見直してほしいと切に願っています。



い草・畳表の普及イベントにて